

第9回 武蔵野市生涯学習計画策定委員会 議事録

日時 令和2年1月23日（木）17時30分～19時30分
会場 武蔵野プレイス4階 フォーラム
出席者 板垣文彦委員、宇佐見義尚委員◎、北村淳子委員、助友裕子委員、白田紀子委員、
花田吉隆委員、牧野篤委員○、松村勝人委員、斉藤愛嗣委員、福島文昭委員
◎委員長、○副委員長

資料 資料1 第二期武蔵野市生涯学習計画（仮称）（案）
資料2 パブリックコメントの結果と対応について

次第

1 パブリックコメントの対応について

事務局より、資料1・2について説明を行った。

委員長 大変有益な意見が寄せられているので、丁寧に対応できたらと思う。いかがか。

2章に関する意見では、市関連施設が充実していないという指摘がある。われわれとしては充実していると回答することになるが、いかがか。

委員 生涯学習施設は市の西側に偏っている。10年間の計画なので、施設の建て替えを行う際に生涯学習施設を整備するといったことに言及できないか。

委員長 具体的にはどのような回答となるか。

委員 社会教育主事が配置されるような、生涯学習のための施設を市の東側にもつくるということになるのではないか。

委員長 事務局としてはいかがか。

事務局 主には図書館に関する意見として捉えている。図書館の担当には意見は伝えてあり、回答もそのようになる。

委員長 学校図書館を地域に開放しているところはないのか。

委員 学校の施設構造にもよるが、子どもの安全が確保されなければならない。学校図書館を開放している自治体もあるが、武蔵野市は面積も狭く、3つの図書館があるので、学校図書館を開放するという考えを持っていない。

委員長 新たな制度をつくらなければいけないのか。

委員 施設をつくるかどうかというよりも、生涯学習の拠点を整備することが望まれているのではないか。

委員 既存の施設を武蔵野プレイスのような機能を持たせるということは、実現可能性はさておいても興味深い。武蔵野プレイスはすばらしい施設だと思っても、アクセスできない人は多数いるので、その改善になると思う。既存の施設の建て替えが一筋縄でいかないことは理解できる。現実的には

アクセス手段の確保なのだろう。ただ、先の委員の意見は武蔵野プレイスの問題というよりも、生涯学習の拠点が全市的にあるべきだということだとは認識している。

委員 社会教育主事の配置は、市として議論するような大きな事柄だと思う。これまで市民が自主的にまちづくりなどに取り組んでこられたが、そこに社会教育主事ははたして必要なのか。また、社会教育主事でなければならないのか。たとえば、今後の生涯学習のあり方検討会のような大きな論点を話し合う場であれば議論してもらえればよいと思うが、ここは生涯学習計画を検討する場なので、現実的に既存の市政との整合性を図るようにしなければならない。

委員長 現実的な対応としてはコミュニティセンターで代替するというところだろう。その点に触れられれば良いかと思うが、いかがか。

委員 生涯学習を広めていく際に、コミュニティ協議会を相談に応じてもらえる場として位置づける気があるかどうか。市民が自主的に学ぶこと場と位置付けるのであれば必要はないと思う。また、相談窓口は必ずしも施設でなくてもよいという考え方もある。何らかの計画を立てる必要があるのではないかと思う。

委員長 コミュニティセンターは固有の運営方針があると思うが、そのなかに生涯学習について触れることができるのか。

委員 パブコメでいただいたご意見は施設のことであるため、回答も施設のことになっている。施設の話だとアクセス改善や施設を新設するというような話になりがちだが、先ほどの事務局説明にあったポータルサイトのような方法論もあるのではないか。回答としては筋が違うのかもしれないが、行政として応答しようとする、そのような考え方になるのではないか。充実していると回答するかどうかは水掛け論にならざるを得ないので避けるべきだろう。

委員長 ご指摘のとおりなので、回答にある「充実しているといえます」という表現は和らげてもらいたい。それでは次はいかがか。自分としては「SDGsの捉え方としては一般的ではないと考えるため」という点は気になっている。

委員 SDGsは一般的な考え方になりつつあると思うので、改めた方がよいと思う。

委員 いまは広まっていないと思うが、いかがか。

事務局 SDGs自体の一般性を語っているわけではなく、ご意見は「SDGsすべてにかかるものが生涯学習である」と捉えてはどうかという内容である。こちらとしては、17つのゴールのうちの1つが生涯学習であるため、上記のような回答としている。

委員長 「更に広い見地に立てば、SDGsのゴール全てはそれぞれに関して市民、

国民一人一人が生涯学習を通して深く理解し、それに向けて行動することによって、達成の可能性が高まるものです。そのため生涯学習はSDGsの全体の推進力として機能します」という文言を入れるということだが、それは一般的なSDGsの捉え方ではないという回答だということか。

事務局 生涯学習があらゆるものの推進力であるとする考え方自体は、基本理念とは親和性がある。実際に「市の施策の生涯学習化」と謳っていることとも通じるが、現時点ではやや行き過ぎではないかと思っている。

委員長 その考え方からか、「基本理念の方向性で一致していますが」という断り書きが引っかかるかもしれない。

委員 今回の回答は表現が強いので、工夫してもらいたい。

委員長 ほかはいかがか。

副委員長 意見11で、学ばない理由として、「場所がない」ということが挙げられている。回答としてはよいと思うが、施策としては、「こういう風に施設が利用できる」ということを周知していく必要はあると思う。施設の偏りについて議論がされており、コミュニティセンターが代替だという意見もあったが、「コミュニティセンターが生涯学習に利用されている」ということを伝えないといけない。それができていないので意見が出てくるのだと思う。

委員 具体的にどのようなものを「学びおくり」というのか、具体例がないと市民としてはイメージがしにくい。「武蔵野市の生涯学習の現状」に、ルーテル学院大学で10年以上行われている「地域福祉ファシリテーター養成講座」は三鷹市、武蔵野市、小金井市、三市の社会福祉協議会、ルーテル学院大学の協働事業で、近隣の行政や社協の交流、協力・連携として大切なので取り上げてもらいたい。

委員長 具体例は示されていると認識している。

委員 仕組みの説明がないと、分かりにくい。具体的にどういうことをやったら「学びおくり」なのか。もうすこし書き込んでもらいたい。

委員 他市の行政計画では、本文とは別にコラムのような文章が載っていることがある。そこで、「学びおくり」のロールモデルが示されているとよいのではないか。

委員長 「学びおくり」は今回初めて示された概念であり、これからつくっていくものでもある。ひとつのイメージに収斂するようなことは避けるべきである。私としては、特に具体的な例はあえて挙げず、自分たちで考えようと思ってもらいたいと思う。

委員 行政の施策だから、市民が自分たちで考えるのではないのではないか。

委員長 ただ、「学びおくり」が何かということを示すと、これまでの社会教育と同様に、上から目線になってしまうのではないか。

委員 具体的な施策としては、30ページに「学びおくる」の支援のための施策を

掲載している。ここで十分でないということであれば追記するが、いかがか。

副委員長

「学びおくり」という造語はとてもインパクトがあると思う。自分も委員長と同じく、自分たちでつくっていくものだと伝えていった方がよいと思う。それを支援する役割が行政だと思う。武蔵野市はコミュニティ政策に長年取り組んできており、住民自らがコミュニティにかかわりながら、武蔵野市をつくってきた歴史がある。その歴史を踏まえ、市民を後押ししていくことが大事であり、生涯学習では「学びおくり」と呼ぼうという話になるのだと思う。全国的にみて地域がバラバラになっているところが多いが、武蔵野市はそうはなっていない。その状況をさらに「学びおくり」によって一歩進め、新しいまちをまたつくっていかうというメッセージだと思う。議論するべきは、その市民の自主的な動きを行政がどのようにバックアップするのかということだ。施設が必要だという意見もあるとは思いますが、もっと身近なところで「学びおくり」が生まれるべきで、そのための支援を検討できるといいと思う。具体的な記述が必要であれば、そのような内容を記載するのでよいのではないか。

委員長

「学びおくり」が何か、何であるべきだったのかということは、計画が終わったときにしか分からないのかもしれない。ここでイメージしていることも違うのかもしれない。ただ大切なのは、武蔵野市民には「学びおくり」を実践することができ、実際に取り組みながら「学びおくり」を深めるということだろう。武蔵野市民にはそういう主体性があるということが望まれていると理解している。加筆できるのであれば、意見を取り入れてもらえればと思う。

議論を第2章にもどしたいが、いかがか。実際にポータルサイトはやるのか。予算化は済んでいるのか。

事務局

計画策定後に予算要求する予定である。数年後には実施に向け、検討していきたい。

委員長

情報化社会なので、ぜひお願いしたい。

委員

意見22の回答について、「新しい時代の新しいテーマ」とは具体的に何か。分かりにくい表現である。「多様なニーズと社会の要請を考慮しながら」という説明の辺りも含めて、表現を工夫してほしい。また、「子育てにも仕事にも役立つ学びの機会を提供」に関する意見への回答の内容はこれでよいのか。そもそも検討していた内容と異なる回答になっていないか確認してもらいたい。

委員長

「新しい」という言葉を使いたくなることは理解できる。

委員

「新しい時代の新しいテーマ」というのは、時代に応じて取り組んでいくということであり、常に新しい課題に取り組んでいくということではないか。意図していることはよいことだと思うが、表現が分かりにくいので工

夫してもらいたい。

もう1つの子育ての回答については内容が疑問である。怒りのコントロール方法が例示されており、仕事にも子育てにも両方役立つというようなことが書かれているが、そういったことでよいのか。育児休業をしていた人が職場復帰する際の支援を行うというようなテーマが望まれると思うのだが、いかがか。

委員長 まず「新しい時代の新しいテーマ」という表現だが、たしかに目をひく表現だが、分かりにくいというのも事実である。削除した方がよいと思うか。

委員 ここでいう「新しい時代の新しいテーマ」というのは、素案の9～10ページに示されていることと思う。それであれば、パブコメの回答にも例示して回答すればよいのではないか。

委員長 なるほど。そうすれば確かに明確になる。検討いただきたい。次に子育てについてはいかがか。

事務局 想定していた事業内容は、回答に書かれたようなことである。職場復帰のためというよりも、子育てと仕事に共通して役立つことを学んでもらうということを想定していた。

委員 いまの話を知ると、ターゲットをメインに書いた方がよいのではないか。子育て中で、仕事もしている人たちをターゲットにした生涯学習の機会を提供するということではないのか。仮にPTA関連で事業実績があるなら、例を示すと分かりやすいだろう。

事務局 具体的には、「アンガーマネジメント」に関する事業がある。

副委員長 表現を少し変えたらよいと思う。生涯学習にアクセスしにくい人の状況を改善するために、両方に役立つ学びの機会を提供するというような書き方が無理がないと思う。

委員長 大筋のところ、副委員長の言う枠組みで書き直してもらおうということでよいか。

事務局 具体例を除き、方向性の考え方だけを書くということでよいか。

副委員長 回答については考えた方がよいと思う。ターゲットを変えつつ、既に事業実績もあるというように書くとよいと思う。

委員長 続いて3章に議論を移したい。素案に「激しい社会環境の変化により」という表現があるが、変わらないものもあるのではないか。そういったものへの視点も忘れるべきではないのではないかと思う。

また、第3章の最初のところで、「社会の求める能力を身につける」を「社会的な課題に応じた学習を行っていく」にしてはどうかという提案があった。ただ、そうすると「社会的な課題」に学ぶ対象を限定することにつながりかねない。もうすこし柔軟であってもよいと思う。

事務局 それについては、「あるいは、社会の要請に基づいて、こういう勉強も必要だ」というような書き方をしているので、大丈夫だと思う。

委員 学ぶということが押し付けられているように感じる。生涯学習は、何かに適応するために学ぶのではないと思う。幅広い学びを許容するような文章を心がけてはどうか。

委員長
委員 そこら辺のニュアンスをどこかに入れるとすれば、どこだろうか。
「社会の求める能力」を「社会の変化への気づき」に変更してはどうか。学生なら「能力」でよいが、生涯学習なので「気づき」ぐらいが望ましい。また、学ぶべきものが決まっているような感じを受けるけれども、社会は我々がつくっていくものなので、その点が気になる。

事務局 市民のニーズを把握して事業を行っていく必要があると思う。身につけるべき能力が先んじてあるように感じるかもしれないが、そういう風には考えていない。その時代、その社会において市民が求めることに応えるという考え方になると思う。

副委員長 社会が求める能力という表現よりも、社会で生きる上で市民が必要と感じる能力という方がよいと思う。あくまで主体は市民だと思うが、社会環境の変化の中で生きているということなのだと思う。

委員長 それも一案だと思う。社会を主人公にしないで、私たちが主人公にして、社会をつくっていくというニュアンスでよいかと思う。

委員 意見35番の「仕事終わりに参加できる講座」は、まさに今日的課題に応えるものだと思う。日本型雇用システムを変えていこうとする時代に、このような講座を求める人は多いだろう。前向きな回答にしてもらえるとよいと思う。

事務局 これにかぎらず、具体的な提案については一律、実際に具体的な事業の実施をする際に参考にさせていただくという回答をしている。ご指摘はそのとおりだと思うので、回答は一律になってしまうが、取り組んでいきたい。

委員 回答にあたっては市としての認識が反映されていてよいと思うので、自分としては一律でなくてもよいと思う。

委員 この回答を他よりも前向きに書くのであれば、計画に何らかの反映をする必要がある。この意見については、参加しにくい人のための機会をつくるということになると思うので、「ラーニング・フォー・オールの推進」になるだろうか。

副委員長 施策の方向性1-3「ライフステージ・ライフスタイルに応じた学びの機会の提供」に書き込むことになるのではないか。「ラーニング・フォー・オール」の説明で、「学習機会をすべての人々に提供しようとする標語として」と書いてあるが、その前に「市が共生社会実現を念頭に」とあるので、『学びおくり』を推進する施策の標語として、『ラーニング・フォー・オール』を使います」という表現してもよいと思う。「学びおくり」のひとつの考え方として「ラーニング・フォー・オール」があると言った方がよいと思う。

委員長 今のような方向性でよいだろうか。他にいかがか。なければ、先ほど委員から意見があった、特定の講座名を計画案に追記する件について検討したい。

委員 繰り返しになるが実績として追記してもらいたい。

事務局 確認だが、いま指摘のあった事業が「武蔵野市の生涯学習の現状」として示されていないということではなかったか。

委員 他自治体と連携して行っているということに触れてもらいたい。

事務局 検討させていただきたい。

委員長 新たに項目を設けることは無理だと思うので、その点は理解してもらいたい。他に何かあるか。

委員 毎年度、何をやっていこうというのが分からない。何から着手するのか直近で何をを目指すのが分からない。行政として具体的なアクションについて示してもらいたい。

委員長 タイムテーブルのようなものがあるといいのか。

委員 重点のものは何なのか。そういったものもあるはずだ。

委員 重点事業を設定するという事は、以前に議題として挙げられたが、議論は深まらなかった。重点事業とそうでないものとは分けた方がよいと思うが、ここまで議論せずに来たことを、パブリックコメント後に決めようとするのはいかがか。

委員 現時点で重点事業を設定することは難しい。そもそもこの計画はマスタープランなので、事業は掲載していないという理解である。そのため、重点化するということはないのだろうと理解している。この計画を受けて、担当課が毎年度の事業を立案する際には何を重視するのかというのはあり得るだろうと思う。それは市民に分かるかたちで示していく必要があるとは思っている。

委員 この内容では行政としてやる気があるのか分からない。

委員長 もちろんやる気はあると思う。参考のために聞きたいが、計画に示されたことを事業化するにはどのようなプロセスを経るのか。

事務局 生涯学習スポーツ課が記載の事業を行うための予算要求を行う。その際の根拠がこの計画である。

委員長 その際に優先事項とそうでないものは精査されると理解した。

事務局 予算のかからないものは先行して着手していきたいと考えている。

委員 この委員会は策定場であり、策定後に評価・推進するのは社会教育委員の会議なのか。

事務局 推進主体は行政になるが、適宜社会教育委員の会議では進捗を報告し、意見をいただく。

委員 パブリックコメントでいただいた意見と回答については、社会教育委員の会議にも報告させていただきたい。

委員長
事務局

それでは、今日のところは終了としたい。最後に事務局から何かあるか。計画案の新しいレイアウト案だが、机上配布した資料のイメージで考えている。こちらにお任せいただければと思うが、イメージをつかんでいただくために、参考までに配布した。

2 事務局からの連絡

事務局

次回、第10回策定委員会の日程は2月13日（木）17時半から、場所は武蔵野プレイス4階、今日と同じ場所。最終回の後、策定委員会から武蔵野市教育委員会に計画書(案)の報告をし、3月3日の教育委員会で協議する。

委員長

目次の前に、「はじめに」をつけると格調高いと思うので、検討いただきたい。

以上